Yokohama

第1節　今、ヨコハマは

高まる郊外部のポテンシャル

郊外部における産業や商業の集積、新しいライフスタイルの展開など、郊外部は今、横浜のニューフロンティアとして声高に主張し始めている

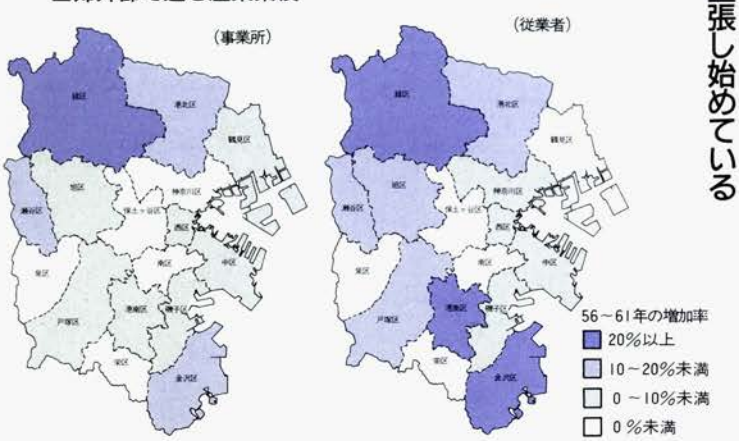
進む産業の集積

市内事業所は、中・鶴見・神奈川区などの主として臨海部に集積しているが、56～61年の増減をみると南・保土ヶ谷・鶴見区などの都心周辺区では減少し、緑・金沢・瀬谷・港南区などの郊外区において大きな伸びがみられる。産業活動の展開は、既存集積地の臨海部から内陸部へとシフトし、特に40年代以降、鉄道、道路網にそって郊外部への企業立地が進んだ。

ハイテク企業（※①）等の立地

1980年代に入って、マイクロエレクトロニクスを中心とした産業の技術革新は目覚ましく、これまでの産業構造や産業立地のパターンを大きく変えつつある。先端技術産業がもっとも必要とする経営資源は、市場へのアクセス、知識・情報、関連技術生産などの集積である。そうした意味から、緑豊かな自然環境、良質な居住空間、大消費地への近接性、豊富な研究機関や人材の集積をもつ郊外部が、都市型成長産業の新たな空間として脚光をあびている。また、経済のソフト化・サービス化の進展は、的確な市場ニーズの把握にもとづく新製品の開発をうながし、郊外部に住むニューファミリー層の新しいライフスタイルをねらって、多くの企業が

■郊外部で進む産業集積



緑区を筆頭に、金沢、瀬谷、港南区等の郊外部の伸びが著しく、南、保土ヶ谷、鶴見、神奈川区の都心周辺部で減少している。

「事業所統計調査」

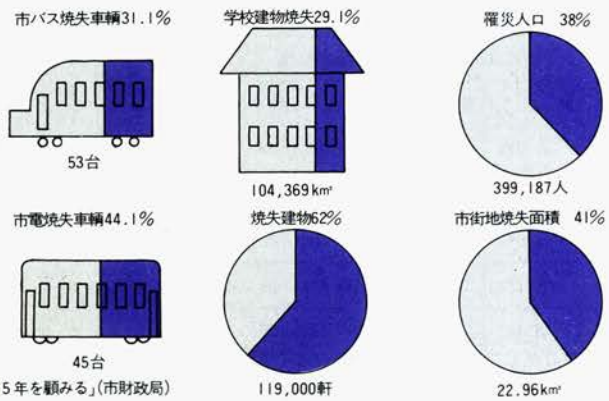
【戦災】

昭和16年12月8日朝6時のラジオ放送は決定的段階を国民に知らせた。「大本営陸海軍部発表、帝国陸軍ハ、今8日未明、西太平洋上ニオイテ、米英軍ト戦闘状態ニ入レリ」。歴史の歯車は音もなく不気味な緊張感をただよわせて転回した。

昭和17年6月、ミッドウエー海戦の惨敗が敗戦への序曲であった。翌18年、アッツ島守備隊の玉砕、19年には、戦局はますます悪化し、学童の集団疎開が始まった。

昭和20年8月12日、けたたましいサイレンが全市に鳴りひびいた。B29の爆音とともに、焼

戦災直後の被害状況（横浜市）



「復興5年を顧みる」（市財政局）

■高まる自区内購買力

高まる郊外部の消費ポテンシャルは、
大規模小売店の立地動向にも
大きな影響を与えることであろう。

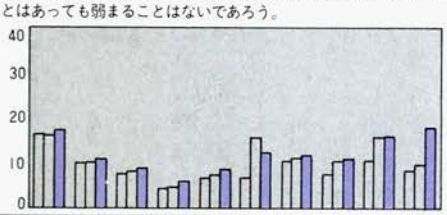
	買まわり品				
	吸収率			伸び率	
	53年	56年	60年	53～56	56～60
鶴見区	38.1	37.5	32.9	△0.6	△4.6
神奈川区	20.9	25.9	28.2	5.0	2.3
西区	69.2	76.7	81.8	7.5	5.1
中区	48.7	54.8	48.9	6.1	△5.9
南区	21.4	21.3	19.9	△0.1	△1.4
港南区	48.6	56.9	58.3	8.3	1.4
保土ヶ谷区	13.6	21.3	19.1	7.7	△2.2
旭区	30.1	29.9	32.1	△0.2	2.2
磯子区	15.1	15.6	13.2	0.5	△2.4
金沢区	31.4	36.4	32.8	△5.0	△3.6
港北区	25.3	29.5	29.6	4.2	0.1
緑区	27.2	39.9	49.6	12.7	9.7
戸塚区	36.2	39.3	44.6	3.1	5.3
瀬谷区	28.8	28.7	29.8	△0.1	1.1

「横浜市消費者購買行動意識調査」(昭和60年度)

■強まる周辺都市との結びつき(東京都を除く市外就業)

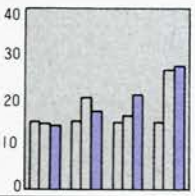
川崎、町田、藤沢、横須賀市等の周辺都市と郊外区との結びつきは、今後とも強まることはあっても弱まることはないであろう。

(単位:%)



	鶴見	神奈	西	中	南	港南	保土	磯子	旭	金沢
35年	16.2	9.8	7.4	4.3	6.5	6.5	10.2	7.3	10.2	7.9
45年	16.0	10.0	8.0	4.6	7.1	15.4	10.7	9.9	15.5	9.2
60年	17.2	10.8	8.7	5.9	8.6	12.0	11.4	10.6	15.6	17.4

(単位:%)



	港北	緑	戸塚	瀬谷
35年	12.5	12.5	12.3	12.3
45年	12.1	16.9	13.5	22.1
60年	11.8	14.3	17.4	22.7

「国勢調査」

進出している。

拠点形成が進む商業集積

市内商業活動を小売販売額でみると、通勤者の動きとは異なり、東京への流出は減少しており、横浜都心への結びつきが強まっている。衣服や家電製品などの買回り品の自区内吸収率は、56～60年比較で14区中8区で増加しており、なかでも緑区(たまプラーザ・青葉台)や戸塚区(戸塚駅周辺)などの郊外部において、中心的な商業地が形成されつつある。

郊外部が形成する独自の地域間関係

市内通勤者の異動状況をみると、東京への依存が高い港北・緑区で市内流動が減少しているものの、ほとんどの区で市内流動が拡大しており、横浜都心との関係だけでなく、それぞれの区が多様な関係を形成している。また、東京都を除いた市外流動をみると、瀬谷・戸塚・金沢区などの郊外区が周辺都市と独自の地域間関係を形成しつつある。

生産から生活の重視、女性の社会進出、人材、情報の価値の高まりを背景に、郊外部は横浜の新しいフロンティアとして、声高に主張し始めている。

※ひとくちメモ

①ハイテク企業
マイクロエレクトロニクス産業、バイオテクノロジー産業、新素材産業などの先端技術産業のこと。

夷弾、爆弾、機銃掃射と嵐のような空襲が続いた。一個の握り飯のあたたかさ、それは空襲の恐しさをしばし忘れさせたのかもしれない。

空襲の回数は25回、横浜は文字どおり焼土と化し、市街地面積の約41%、罹災人口は総人口の約38%にあたる約40万人、死傷者は約19,000人にものぼった。

空襲の後の焼け野原